

横須賀市自然・人文博物館付属

馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園・天神島ビジターセンター

しぜんきょういくな

自然教育園だより

Vol.5 No.2

(2012年夏号)

2012年7月15日発行

横須賀市自然・人文博物館

046-824-3688

自然教育園の見どころを「天神島の自然誌」「馬堀の自然誌」として連載します！

天神島自然教育園の自然誌

②県指定天然記念物ハマオモト

ハマオモト（ハマユウ）はハマボウやイソギクなどとともに三浦半島の海岸生物相の豊かさを象徴する植物です。天神島のハマオモトは、長い間この島の多くの動植物とともに、地元の方々に大切にされてきました。しかし、環境の変化や採取によって神奈川県内の自生地がほとんど失われ、天神島でも数が減少したことから、1953（昭和28）年に、分布北限のハマオモトとして、神奈川県天然記念物に指定されました。1966年からは生育地を含む一帯が横須賀市博物館附属天神島臨海自然教育園として保護・管理されています。

このたび2009年の台風によって倒壊した擬木柵の補修に合わせて観察路が新たに整備され、天然記念物のハマオモト自生地が観賞できるようになりました。保護のために閉鎖されて以来、40年ぶりの公開となります。

ハマオモトの種子は海流によって運ばれます。これを機会に海流に乗って天神島にやってきた多種多様な海岸動植物にも目を向け、その保護と海岸景観の保全の大切さに思いを巡らせていただければ幸いです。（大森 記）



1955年ころのハマオモト自生地



1961年の自生地



このたび新設されたハマオモト観察路

本館企画展示「三浦半島のチョウ」

7月14日（土）から博物館本館特別展示室で企画展示「三浦半島のチョウ」（協力：三浦半島昆虫研究会）がオープンします。当博物館の半世紀以上にわたる地域研究の中で、チョウ（蝶）については、三浦半島昆虫研究会と30年以上研究してきました。三浦半島のチョウたちの変化を84種の標本とともに示し、チョウたちの生き生きとした暮らしを写真で紹介いたします。

入場無料。9月30日（日）まで。



モンキアゲハ



ルリタテハ

関連行事

展示解説：7月14日（土）午後2～3時（特別展示室）

講演会「チョウたちは変わったのか～三浦半島のチョウ～」

：8月12日（日）午後2～4時（講座室）

生きているチョウの展示：①7月14日（土）～16日（月曜開館日）、②8月10日（金）～12日（日）、③9月15日（土）～17日（月曜開館日） 各日10～16時（特別展示室）

▶ 自然教育園での出来事 (2012年3月～2012年5月) ◀

馬堀自然教育園

3月 1日 シロハラが深い井戸の付近で鳴いていた (a)。3日 上の池周辺でトウキョウサンショウウオ2匹が外敵に襲われて死んでいた (c)。アオゲラ、ツグミ、カワラヒワを確認。4日 ウメの花が咲き始めた (a)。6日 水源地付近でタイワンリス3匹を見た (c)。7日 ヒメウス、ヤマネコノメソウが咲き始めた。9日 中央広場でフキが芽を出した。中央広場にカブトムシ幼虫が多数(約50匹)いた (b)。13日 シュンランが咲いていた。地表で10羽以上のツグミがえさを探していた (b)。18日 上の広場の湿地でワサビが咲き始めた (c)。22日 ヒサカキが咲いていた。ツグミがハゼノキの実を食べていた (c)。24日 学習室水槽のトウキョウサンショウウオ卵のうちから幼生が出てきていた。27日 倉庫前のイロハモミジが開花した (b)。29日 下の池付近でキムネクマバチを見た (a)。30日 中央広場にオオバヤシャブシの雄花がたくさん落ちていた (b)。トネアザミの葉にクワゴマダラヒトリ幼虫8匹を確認した。上の池でヤマアカガエル♂を確認 (c)。

4月 1日 ヒメウスが咲いた。3日 上の池にコセアアカメンボが3匹いた (c)。オオシマザクラとヤマザクラが咲いていた。4日 今季のトウキョウサンショウウオの園内産卵数が39腹となった。ムラサキケマン、タチツボスミレ、アオキの花が咲いていた。11日 側溝にサウ

ガニがいた (c)。15日 ムラサキケマン、ハルノノゲシ、セリバヒエンソウ、タチツボスミレが満開だった。18日 コナラ、クヌギ、ヤマグワが咲いていた。コマルハナバチ♀が飛んでいた (b)。下の池でメダカが群れて泳いでいた (a)。21日 キランソウ、ヤブニンジンが咲いていた。24日 ミスジマイマイが枯れたヒラタケを食べていた。ツバメが飛来した。29日 マルバウツギが開花。水源地周辺でカワトンボを今季初認した (c)。

5月 2日 ミズキ、オニグルミが開花した。5日 キンラン、ギンランが開花した。ベニシジミを確認した (a)。ニホントカゲとヤマアカガエルを見た (e)。10日 クロアゲハが飛来した (a)。11日 上の池でアカハライモリの求愛を確認した (c)。ハコネウツギ、トウバナが咲いていた。モンキアゲハ、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、コジャノメが飛んでいた。17日 タマサング、コナスビの花が咲いていた。体長約40cmのヒバカリを見た (e)。20日 上の池付近にカワトンボが多くなった。22日 ニッポンマイマイがいた (c)。24日 アオダイショウとニホンヤモリを見た。26日 アカスジキンカメムシの成虫 (e) と終齢幼虫 (b,c) を確認。29日 中央広場でヘビイチゴの実がなっていた。オオシマザクラにナシアシブトハバチの幼虫が多数ついていた。31日 フウトウカズラ、コモチマンネングサが咲いていた。木の根元で羽化後間もないオオミズアオが羽を広げていた (c)。下の池でクロスジギンヤンマが産卵していた (a)。



シロハラ (3/27)



ヤマアカガエル (3/30)



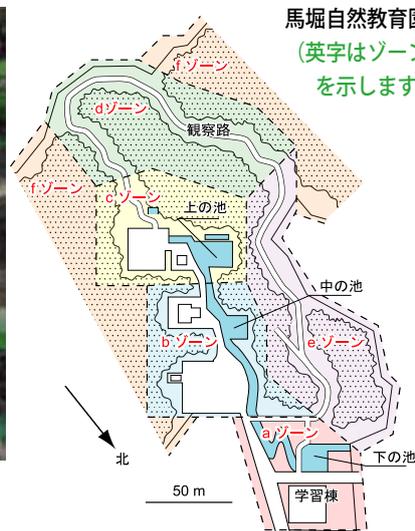
ワサビ (4/6)



ヤマグワ (4/18)



キンラン (5/5)



マルバウツギ (4/30)



ベニシジミ (5/5)



ニッポンマイマイ (5/30)



オオミズアオ (5/31)

天神島臨海自然教育園

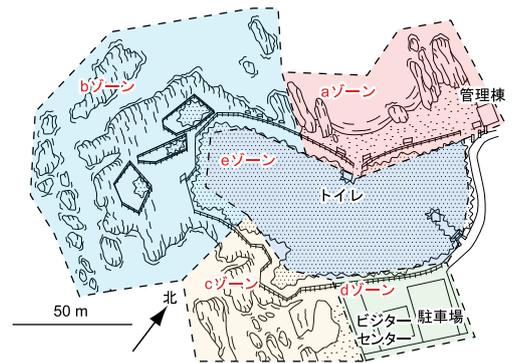
3月 1日 ミサゴが、1羽が飛翔、1羽が笠島で休んでいた。クロサギ2羽が笠島の営巣地付近で見られた。コサギ約150羽の群れが笠島に飛来した。2日 イソヒヨドリのオスがカニを捕食していた(c)。ミサゴが魚を持って飛んでいた。3日 岩場でカワセミが見られた(c)。4日 フナムシが水たまりの底にかたまって群れていた(a)。ユリカモメ約100羽が岩場で休んでいた(b)。9日 ハマダイコンが開花した。10日 オオセグロカモメが打ち上げられた死んだアイゴを食べていた(a)。11日 婚姻色のウミウが岩場で休んでいた(b)。コイチョウガニを確認した(b)。15日 トビがタブノキの上で交尾を行っていた(e)。砂地の浅場でクサフグ多数とアカメフグ3個体ほどが確認できた(b)。16日 ツグミとシロハラが争っていた(e)。18日 ウミアイサ1羽が飛翔していた。前日海が荒れ、若いウミウが1個体と、アメフラシの卵塊、海藻類などが多く打ち上がった(a)。22日 笠島で交尾を行うクロサギの姿が確認できた。23日 笠島付近を飛翔しているハヤブサが見られた。24日 ツバメ1羽を確認した。29日 潮だまりでヤマトウミウシが見られた(b)。

4月 1日 オオシマザクラが開花し、メジロが吸蜜に来ていた。コゲラが枯れた枝で餌を探していた(e)。砂浜でコチドリ2羽が確認できた(a)。5日 ハマエンドウが開花した。7日 天神島では初記録となるヤブサメの声を確認できた(e)。砂浜でヒョウタンゴムシが見られた。アマモの花が確認できた(a)。8日 ミツバアケビが満開になり、エノキも芽吹いてきた(e)。14日 夏羽のユリカモメ100羽が上空を北へ向かって飛んで行った。15日 林内でアオジがさえずっていた(e)。19日 糸が足に絡まり、木の枝に宙づりになっていたイソヒヨドリ♂を保護・放鳥した。20日 海藻の一部が枯れて磯焼けになっていた(b)。22日 チュウシャクシギ1羽が見られた。29日 天神島では初

記録となるコクガン1羽が確認できた。キアシシギ1羽とキョウジョシギ6羽が見られた(b)。沖合では水浴びするウミスズメ数羽が見られた。草地ではモンキチョウ、ミスジチョウ、キアゲハが見られた(b)。

5月 3日 マルバシャリンバイが満開になっていた(e)。キョウジョシギ25羽が確認できた(a)。笠島でメダイチドリ4羽が見られた。沖合では多数のミズナギドリ類が群れていた。4日 ハマヒルガオが咲いていた。オオヨシキリのさえずりを確認した。5日 磯でキヌハダウミウシがダイダイウミウシを捕食していた(b)。林縁でカナヘビ5匹が見られた(e)。6日 天神島と笠島の間を飛翔するコアジサシ2羽が見られた。10日 ハマボッサ、トベラが開花した。ジャコウアゲハが見られた(b,e)。林内からウグイスのさえずりが聞こえた(e)。潮だまりでカミクラゲが見られた。水面にケシウミアメンボが10個体以上見られた(b)。11日 カルガモの幼鳥18羽が岩場で休息していた(a)。12日 チュウシャクシギ2羽、キアシシギ4羽、キョウジョシギ32羽、トウネン5羽が見られた(b,c)。18日 笠島付近の岩場で休息するチュウサギ6羽を確認した。ハシボソミズナギドリの漂着死体があった。19日 林の中でゴジュケイがさえずっていた(e)。カクベンケイガニを確認した(b)。24日 潮だまりでカゴカキダイの幼魚が数匹見られた(b)。淡水の池ではハイロゲンゴロウ、ミズムシの仲間、アメンボの仲間が見られた。テリハノイバラが開花していた(b)。林の中からガビチョウの声が聞こえた(e)。26日 ハマウドとツルオオバマサキが開花した。

天神島臨海自然教育園およびビジターセンター
(英字はゾーンを示します)



魚を捕らえたミサゴ (3/2)



ヤマトウミウシ (3/29)



コゲラ (4/1)



ミツバアケビ (4/8)



マルバシャリンバイ (5/3)



ハマダイコンに飛来したマルハナバチの1種 (5/5)

博物館行事レポート

自然観察会「海藻入門」

(2012年4月21日・参加者12名)

講師の東京海洋大学教授 田中次郎先生の指導のもと、天神島臨海自然教育園の南側の磯に沿って、海藻を観察しながら採集しました。ビジターセンターで集めた海藻の同定した結果、モツレミル、ヒラキントキなどの初記録種も加えて約60種が確認できました。

また、当日はヒジキの解禁日に当たり、磯でヒジキの刈り取りを見ることができました。

2006年から東京海洋大学藻類学研究室の協力で行ってきた本行事によって、6年間に118種の海藻と2種の海藻が記録され、この地域の海藻の豊かさが再認識されました。(大森 記)



海藻観察・採集中の参加者(上)

海藻の解説をされる田中先生(左)

自然教育園イベント紹介

※申込方法を必ず博物館HPや年間行事(パンフレット)でご確認ください。

— 夏 休 み 企 画 —

1. 夜の昆虫かんさつ

昆虫の中には、夜になると活発になるものがあります。こうした夜の昆虫の生活を、海沿いの環境で観察する調査を体験しましょう。2012年①8/3(金)、②8/4(土)の2回。いずれも17:00-20:30。天神島臨海自然教育園。対象は小学生以上20名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料50円。希望日①、②を明記のこと。締切:7/20(金)。

2. 箱めがねで磯の生き物を観察しよう

水中を観察する方法の中で、安全かつ容易な箱めがねを用いて、魚・カニ・ウニ・ウミウシなどの磯の生き物を観察します。2012年8/18(土)10:00-12:00。天神島臨海自然教育園。対象は小学生以上30名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料50円。締切:8/4(土)。*箱めがねの貸し出しあり(無料)。

— 天 神 島 ツ ア ー ガ イ ド —

毎月第4日曜日に、天神島の季節に応じた見どころを紹介します。4~9月:10:00-11:00、10月~3月:13:00-14:00。開催当日教育園入口にお集まりください。申込不要、参加無料。

— 自 然 観 察 会 —

1. 潮だまりの生き物

1年で最も干満の差が大きくなるこの時期、潮間帯の岩礁にできる潮だまりにくらすカニやヤドカリ、巻貝、ウニ、魚などを観察します。2012年8/2(木)9:30-12:00。天神島臨海自然教育園。対象は小学生以上30名(ただし、小学生は保護者同伴のこと)。野外保険料50円。締切:7/19(木)。

— 博 物 館 教 室 —

1. 三浦半島の草花に親しむ: 秋冬編

三浦半島で秋から冬に咲く身近な草花を観察します。2012年10/6、10/20、11/3、11/17(いずれも土曜日)の全4回。10:00-15:00。馬堀自然教育園ほか。対象は一般20名。野外保険料各回1人50円。締切:9/21(金)。

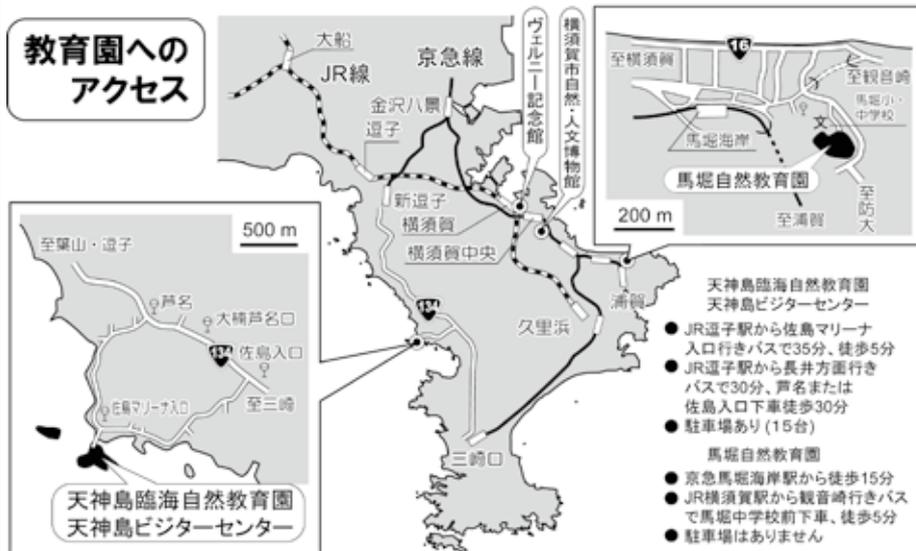
— 天 神 島 め ぐ り —

1. 秋の海浜昆虫

三浦半島の沿岸に天神島には海岸・草原・林があり、小さな昆虫達にとっては多様な変化に富んだ環境です。さまざまな環境にくらすいろいろな昆虫を観察しましょう。2012年10/7(日)9:30-11:30。天神島臨海自然教育園。対象は一般20名。野外保険料1人50円。締切:9/21(金)。

横須賀市自然・人文博物館 附属自然教育園

教育園へのアクセス



馬堀自然教育園

〒239-0802 横須賀市馬堀町4-10-3
TEL 046-841-5727 (FAX 共用)

神奈川県指定名勝・天然記念物

天神島臨海自然教育園

天神島ビジターセンター

〒240-0103 横須賀市佐島3-7-3
TEL 046-856-0717 (FAX 共用)

博物館本館

〒238-0016 横須賀市深田台95
TEL 046-824-3688
FAX 046-824-3658

休館・休園日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

開館・開園時間 9:00-17:00

(自然教育園 10~3月は16:30まで)

博物館ホームページでも、「自然教育園だより」をご覧いただけます!

(<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>)